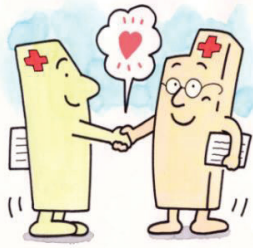


第216号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院



帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

公益財団法人北海道医療団
永年勤続者表彰式



帯広第一病院



帯広西病院



介護老人保健施設とかち



音更病院

今号の内容

- ・新年のご挨拶 理事長 小林 光樹 院長 山並 秀章 (2)
- ・新任医師紹介 / 医療安全管理部門のご紹介 医療安全管理部長代理 森 美雅 (3)
- ・帯広西病院施設紹介 リハビリテーション科 主任 戸松 孝寿 / 主任 長谷川 隆洋 (4)

新年のご挨拶を申し上げます



理事長 小林 光樹



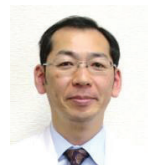
皆さま、明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスが減らない一方で、インフルエンザも流行を見せております。当然ながら、通常のようにさまざまな疾患は変わらずに発症しているわけですので、皆さま慌たたく仕事に奮闘されていることと思います。

昨年は、北海道医療団の各病院・施設への紹介窓口を法人連携推進部に一本化いたしました。皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。おかげさまで、当法人内での病院や施設での適切な病床をすぐに提供することができるようになりました。このことによって、迅速かつ断らない入院対応をするシステムに近づいたと考えています。そのことが、急性期、回復期、慢性期、介護、在宅医療といった具合に、患者様の状態や状況に合わせた医療・介護を提供する体制へ、また一歩近づくことができたのではないかと思います。当法人の理念である「患者・地域・住民から信頼される法人」を第一に思いながら、この地域の健康を守っていくことができるように今後も努力してまいります。

本年もよろしくお願いいたします。

院長 山並 秀章



あけましておめでとうございます。

コロナウイルスのパンデミックやロシアのウクライナ侵攻が続くことによる世界的な物価高など、ここ数年、私たちは世界の影響を受けながら生活していることを思い知らされており、この流れはしばらく続きそうです。その影響によるものなのか、一般の人々の病院への受診行動が変化しているように思います。しかし、それに対応して、常に選んでもらえる病院でありつづけることが我々の使命だと感じています。あらゆる消化器疾患に対応できる我々の強みを活かしながら、変わるべきところは変えていき、皆様から患者様をご紹介いただける、また、一般の方々からも受診を選んでいただける病院を目指していきたいと思っております。

昨年暮れからインフルエンザとコロナが猛威を奮っており、苦労はたえませんが、十勝の地域医療を守る一端を引き続き担っていきたく思います。今年もよろしくお願いいたします。

新任医師紹介

～12月より着任されました先生にインタビューをしました～



緩和ケア科

専門分野：心療内科、ホスピス

おの めぐみ

小野 恵

昭和55年3月 大韓民国梨花女子大学医学部 卒業
前勤務先 からし種在宅クリニック 院長
令和5年12月 帯広第一病院 着任

1 緩和ケア科を選んだ理由

麻酔科出身なのですが、研修医時代から痛みの治療に関心を持ちました。家族と海外で医療活動や奉仕活動をしていた時に、父がS字結腸癌(S状結腸癌)になり在宅で看取りましたが、緩和を完璧にできなかった辛さがあり、もっと勉強したいと思ったからです。

2 当院の印象

皆さん親切な印象で、公益財団法人北海道医療団の理念にとっても感銘を受けました。

3 当院でやりたいことは？

皆さんの身体的な緩和を十分に行うことができたらいいなとは思いますが、やはり人間はそれだけではないので心情的な辛さをシェアし、その辛さの中でも明るく、楽しく、笑いのある緩和ケア病棟にしていきたいと思っています。

4 医師になろうと思ったきっかけ

12歳の誕生日に父からアルベルト・シュヴァイツァー博士の本を貰いました。私の父、祖父も牧師という環境の中で育って「私はアフリカの医者は誰もいないようなところに行くんだ」と思ったのがきっかけです。

5 これからの抱負

あまり気負わないで、皆さんと和めるような私でありたいと思っています。
多くの専門の先生がいらっしゃるので、一から学びたいと思っています。

6 地域の先生方へ一言

在宅緩和を中心に皆で協力し合い、帯広市、十勝が全体的にレベルアップしていけるよう努力していきますので、よろしくお願いいたします。

医療安全管理部門のご紹介 医療安全管理部長代理 森 美雅

2023年4月より専従の医療安全管理者を配置し、医療安全管理部として2023年6月より安全な医療提供することを目的とし、各部門から影響を受けないよう院長直属の部門と位置づけ、活動を行っております。

医療安全管理部では、病院内の安全に関連する活動を支援しております。また、部門を横断した対応が必要な場合の、調整的な役割も担っています。2024年度からは部署に配置しております医療安全推進者を一新し、医療安全に関する職員教育の見直しを行っていく予定です。

医療安全管理部の業務

- ・ 部署医療安全推進者の安全管理業務支援に関すること。
- ・ インシデントやアクシデントへの対応に関すること。
- ・ 医療安全の推進、医療事故防止に関すること。
- ・ 医療安全にかかわる職員の教育・研修に関すること。
- ・ 患者及び家族からの相談や苦情、クレームに関すること。
- ・ 医事紛争対応に関すること。
- ・ コンプライアンスに関すること。
- ・ 暴言・暴力に関すること。
- ・ 警察や検察、裁判所等の行政機関対応に関すること。



帯広西病院施設紹介

リハビリテーション科 主任 戸松 孝寿 / 主任 長谷川 隆洋

平素より大変お世話になっております。
 帯広西病院リハビリテーション科の紹介をさせていただきます。現在スタッフが24名(PT12名、OT9名、ST3名)在籍しており、チーム制を導入し各チームのリーダーが個人の業務スケジュールを管理しています。回復期病棟、療養病棟、介護医療院の患者・利用者に対しリハビリテーションを提供しています。今年度科内目標は『リハ科内平均月18単位取得・回復期患者1日平均提供単位数6単位』『回復期入院料2の維持(在宅復帰率7割)と実績指数27を目指す為の質の高いリハビリテーションの提供』を掲げており、達成するために週1回



のチームミーティング、月1回リハ科ミーティング等質の向上を図るような取り組みを実施しています。また新たな試みで回復期病棟の今後に関して職員にアンケートを募り、その中で意見を形にしていく取り組みを実施しました。写真はクリスマス会を実施した時のものとなっています。コロナ渦では困難だった新たな取り組みを実現させていくことで徐々に活気が戻ってきているのを実感しています。

来年度は医療・介護・障害福祉のトリプル改定が実施されますが、時代・患者・利用者・スタッフのニーズに答えられるようリハビリテーション科スタッフ一同日々精進して参りたいと思います。

これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

帯広西病院のホームページで回復期リハビリテーション病棟について詳しく掲載しております。

QRコード、下記のURLから帯広西病院のホームページにアクセスできますのでご利用ください。

URL <https://www.zhi.or.jp/n/kaifuku/>



発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室
 〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3
 TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)
 FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

